

PRESS RELEASE

2025 年 6 月 3 日
株式会社 ispace

**ispace EUROPE、欧州宇宙機関とローバーを使った月面探査計画「MAGPIE」の
フェーズ 1 契約を締結**

株式会社 ispace（東京都中央区、代表取締役：袴田武史、以下 ispace）（証券コード [9348](#)）の欧州法人である ispace-EUROPE S.A.（以下 ispace EUROPE）は、欧州宇宙機関（ESA）との間で締結している The Mission for Advanced Geophysics and Polar Ice Exploration（先端地球物理学および極域氷探査ミッション、以下 MAGPIE）におけるプリフェーズ A^{*1}の契約に関して、本ミッションの進捗に伴い、より具体化したフェーズ 1 へ移行したことから契約内容を拡充させた契約へ改訂することを発表しましたので、お知らせいたします。2つのフェーズを合計した総契約金額は 269 万 5 千ユーロ（約 437 百万円^{*2}）となります。

^{*1} ミッションの概念設計および実現可能性を分析する前段階契約

^{*2} 2025 年 4 月末時点の TTM レートを使用し円換算

MAGPIE とは、月の極域における揮発性物質の堆積物の探査と特性評価、および水氷の探索を目的としたミッションです。本契約は、ESA が推進する「Small Missions for Exploration」イニシアティブの一環として ispace の提案した MAGPIE コンセプトが採択され、2024 年 12 月に締結しました。このたびの契約改定に基づき、ispace EUROPE は ESA と協力し、将来的な月探査ミッション実施に向けて、ペイロードの技術成熟、接続方法の開発、試作機の製造など、ミッション構想の具体化を主導していきます。

ispace EUROPE は本ミッションに関わる複数機関で構成されるコンソーシアムを主導しています。これらの機関には、ミュンヘン工科大学（ドイツ）、オスロ大学宇宙センサー・システム・センター（ノルウェー）、KP Labs（ポーランド）、チェコ工科大学 実験応用物理学研究所（チェコ共和国）、およびオープン・ユニバーシティ（英国）が含まれます。

ispace と ESA の MAGPIE における協力は、ESA が主導する初の月面探査ミッションとなります。月の永久凍土地域の科学的な知見が増えることで、MAGPIE は欧州を、ESA の示すロードマップ「Terraе Novae」および 2040 年戦略に定められた資源利用および月面開発に近づけることが可能となります。そして本契約は、ESA の国際的な月プログラムへの参加にも大きく貢献することとなります。

■ ispace EUROPE CEO、Julien-Alexandre Lamamy コメント

「私たちは、欧州が目指す将来の月面探査の基盤を築くために ESA と協力出来ることを嬉しく思います。この契約は、政府機関にとって ispace のような商業パートナーが、次世代の宇宙探査と科学の発展において果たす重要な役割を示しています。」

ispace EUROPE は、独自に開発した欧州初の小型月面探査車を、2025 年 1 月に ispace のミッション 2 で打ち上げました。ispace はミッション 2 で ESA の Estrack グローバル地上局ネットワークの使用契約を締結しており、ミッション期間中 RESILIENCE ランダーへのコマンド送信や、データ等の情報受信の際に ESA は非常に重要な役割を果たしています。

■ ispace-EUROPE S.A.について

ルクセンブルクに拠点を置く欧州法人である ispace EUROPE は、月面探査車の開発を重点的に取り組んでいます。欧州初となる独自設計および製造、組み立てを行い、マイクロローバー（小型月面探査車）の開発をしています。世界トップクラスの人材が集まり、ロボット工学技術やルクセンブルクのエコシステムとの強固なつながりを持つ ispace EUROPE は、欧州における月面産業の創出を加速させ、拡大する法人や個人顧客のニーズに応えます。

同社には、月面を模した月面ヤードや関連ミッションのシミュレーションを行うためのミッションコントロールルーム（管制室）を構え、月面探査車のナビゲーション技術の開発をサポートしています。

■ 株式会社 ispace (<https://ispace-inc.com/jpn/>)について

「Expand our planet. Expand our future. ~人類の生活圏を宇宙に広げ、持続性のある世界へ~」をビジョンに掲げ、月面資源開発に取り組んでいる宇宙スタートアップ企業。日本、ルクセンブルク、アメリカの 3 拠点で活動し、現在約 300 名のスタッフが在籍。2010 年に設立し、Google Lunar XPRIZE レースの最終選考に残った 5 チームのうちの 1 チームである「HAKUTO」を運営した。月への高頻度かつ低コストの輸送サービスを提供することを目的とした小型のランダー（月着陸船）と、月探査用のローバー（月面探査車）を開発。民間企業が月でビジネスを行うためのゲートウェイとなることを目指し、月市場への参入をサポートするための月データビジネスコンセプトの立ち上げも行う。2022 年 12 月 11 日には SpaceX の Falcon 9 を使用し、同社初となるミッション 1 のランダーの打ち上げを完了。続くミッション 2 は 2025 年 1 月 15 日に打ち上げを完了し、最短 2025 年 6 月 6 日に、月面着陸へ再挑戦の予定。ミッション 3（正式名称：Team Draper Commercial Mission 1）およびミッション 4（旧ミッション 6）は 2027 年に打ち上げを行う予定。

ミッション 1 の目的は、ランダーの設計および技術の検証と、月面輸送サービスと月面データサービスの提供という事業モデルの検証および強化であり、ミッション 1 マイルストーンの 10 段階の内 Success8 まで成功を収めることができ、Success9 中においても、着陸シーケンス中のデータも含め月面着陸ミッションを実現する上での貴重なデータやノウハウなどを獲得することに成功。ミッション 1 で得られたデータやノウハウは、後続するミッション 2 へフィードバックされている。更にミッション 3 では、より精度を高めた月面輸送サービスの提供によって NASA が行う「アルテミス計画」にも貢献する計画。